

令和3年度 富山県技術専門学院訓練二一ズ調査報告書（抜粋）

I 調査概要

---



## I 調査概要

### 1. 調査の目的

富山県技術専門学院（以下「技専」という）において、訓練ニーズに対応した職業訓練を展開するため、県内の事業所、求職者、高校生、技専の修了生を対象として、それぞれの立場における職業能力開発に関する現状や意識、技専に対する要望や課題を整理し、今後の技専の在り方を検討する基礎資料とする。

### 2. 調査の実施概要

#### (1) 事業所対象

##### ①調査方法

富山県内に本社または支店・営業所を有する事業所・工場等 3,281 社を抽出し、郵送による配布、郵送及びWEB 回答による回収を行った。

##### ②調査期間

令和3年11月～12月

##### ③調査票配布及び有効回答数

配布数：3,281 事業所／有効回答数：1,183 事業所（回収率 36.1%）

※うち郵送 842 件、WEB 回答 341 件

#### (2) 求職者対象

##### ①調査方法

県内6ヶ所のハローワーク及び富山県人材活躍推進センターの窓口にて求職者に調査票の記入を依頼し、郵送及びWEB 回答による回収を行った。

富山職業能力開発促進センター（ポリテクセンター富山）、技専の職業訓練受講者に調査票の記入を依頼し、回収を行った。

また、県内で就職を考えている不特定多数の求職者を対象として、WEB 上の閲覧者が回答できるページを開設し、回収を行った。

##### ②調査期間

令和3年11月～12月

##### ③調査票配布及び有効回答数

配布数：1,395 件／有効回答数：460 件（回収率 33.0%）

不特定多数の求職者：WEB 有効回答数：29 件

合計有効回答数：489 件

【内訳】ハローワーク等配布数：1,050 件／有効回答数：115 件（郵送回収率 11.0%）

学校施設配布数：268 枚／有効回答数：268 枚（郵送回収率 100%）

ハローワーク及び学校施設配布者のWEB 回答 77 件

### (3) 高校生対象

#### ①調査方法

県内高等学校 17 校の学生を対象に、調査票を配布・回収を行った。

#### ②調査期間

令和 3 年 11 月～12 月

#### ③調査票配布及び有効回答数

配布数：1,454 枚／有効回答数：1,454 枚（回収率 100%）

### (4) 技専修了生対象

#### ①調査方法

技専の修了生を対象に、郵送により調査票を配布、郵送及び WEB 回答による回収を行った。

#### ②調査期間

令和 3 年 11 月～12 月

#### ③調査票配布及び有効回答数

配布数：733 枚／有効回答数：396 枚（回収率 54.0%）

※うち郵送 254 件、WEB 回答 142 件

## 3. 報告書の見方

- (1) 結果は百分率で表示し、少数第 2 位を四捨五入して算出しているため、個々の比率の合計と全体を示す数値とは一致しないことがある。
- (2) 図表中に「無回答」とあるものは、回答が示されていないものである。
- (3) 図表中の N 及び（ ）内の数は各質問に対する回答者数で、比率算出の基数である。なお、属性について無回答があったため、属性別の回答数の合計と全体の回答数の数値とは合致しないことがある。

## Ⅱ まとめ

---



## II まとめ

### 1. 現状について

#### (1) 人材の過不足感と希望業種・職種について

事業所における人材の過不足感について、『不足している』（「やや不足している」＋「不足している」）が49.6%を占め、「今後は不足しそうだ」の18.4%を合わせると約7割の事業所が将来を含め不足感を感じていることがわかる。特に、「非製造業」では54.2%を占めており、現在のところ不足感が強い。

不足している（今後不足しそうな）年齢層は、「若年層」が業種に関わらず8割を超えており、特に不足感が強いことがわかる。

また、不足している（今後不足しそうな）職種は、「製造業」では「技能職」が73.0%、「非製造業」では「専門技術職」が53.8%となっており、この職種が特に不足していることがうかがえる。

一方、求職者の希望する業種は、「製造業」が39.5%、「非製造業」が76.1%と、「非製造業」を希望する人の方が多い。24業種別にみると、「医療・福祉」が19.2%、「情報通信業」が17.0%となっている。

また、希望する職種は、「製造業」では「専門技術職」（42.5%）、「一般事務職」（36.8%）、「生産技術・技能職」（33.2%）が高く、「非製造業」では「一般事務職」（39.0%）、「専門技術職」（36.3%）が高い。

高校生の希望する業種では、「製造業」が30.8%、「非製造業」が44.3%となっている。

また、希望する職種は、「製造業」「非製造業」とともに「専門技術職」が4割を超えている。

#### (2) 就職する際の重視点と技専入校理由等について

求職者の仕事探しで重視したいことは、全体では「時間・休日等の就業条件」が66.1%、「適性にあった仕事」が49.1%、「収入」が47.6%であった。

また、高校生が就職する上で重視したいことは、「収入」が72.1%、「職場環境」が50.4%、「時間・休日等の就業条件」が47.9%となっている。

#### ■就職の際に重視する点

	求職者		高校生	
1	時間・休日等の就業条件	66.1%	収入	72.1%
2	適性にあった仕事	49.1%	職場環境	50.4%
3	収入	47.6%	時間・休日等の就業条件	47.9%

一方、求職者の仕事を探す上で足りないこと、必要なことは、「知識・経験」が54.4%、「スキル」が51.3%、「資格」が42.9%となっている。特に、製造業希望者では、「知識・経験」と「スキル」が5割を超えている。

技専修了生の入校した理由や動機は、「技能や技術を身につけられるから」が73.7%、「資格を取れるから」が58.6%、「訓練内容に興味があったから」が58.3%と、この3つが主な理由や動機となっている。40～50代では、「資格を取れるから」が7割を超えている。

修了生の9割以上が満足しており、その理由としても「技術や技能が身についた」が79.7%、「資格が取れた」が67.5%、「いい先生や仲間に出会えた」が64.5%となっていることから、修了生の多くが目的を達成していることがわかる。

#### ■入校理由・動機、良かった点

入校した理由や動機		入学して良かったと思う理由		
1	技能や技術を身につけられるから	73.7%	技術や技能が身についた	79.7%
2	資格を取れるから	58.6%	資格が取れた	67.5%
3	訓練内容に興味があったから	58.3%	いい先生や仲間に出会えた	64.5%

このような結果から、仕事を探す上で足りない技能や技術の習得のほかに、資格を取得する上で技専が果たしている役割が大きく、一定の成果をあげていることがわかる。

## 2. 訓練コースのニーズ

### (1) 訓練コースの満足度とニーズ

技専受講経験者を採用したことがある事業所のうち採用経験があるコースの上位3つは、「メカトロニクス科」「電子情報科」「介護サービス科」となっている。各コースの満足度（「満足」+「やや満足」）は、「メカトロニクス科」が48.0%、「電子情報科」が55.0%、「介護サービス科」が77.8%となっており、おおむね満足度が高い。

求職者の受講してみたいコースの上位をみると、製造業希望者、非製造業希望者ともにパソコンスキルのニーズが高いことがわかる。

#### ■求職者の受講してみたいコース上位3コース

製造業希望者		非製造業希望者		
1	ビジネス事務科 (パソコン・経理コース)	17.6%	OA事務科 (経理実践コース)	18.0%
2	OA事務科 (経理実践コース)	16.1%	パソコン事務科	16.9%
3	パソコン事務科	15.5%	ビジネス事務科 (パソコン・経理コース)	15.3%

高校生の興味のある学科は、製造業希望者では「電子情報科」が31.7%、「自動車整備科」が18.5%、「メカトロニクス科」が11.4%となっている。



## (2) CAD関連コースのニーズ

ものづくり系事業所のCAD及びCAMを使う業務では、約5割の事業所が不足感を感じており、おおむね4割の事業所が技専での育成を希望していることがわかる。

### ■人材充足度、技専での育成希望

	製品・部品の図面をCADにて作成している製造業事業所 (CADを使う業務)		NC機械による部材・部品等の製造やFA装置等の製作の事業所 (CAD/CAMを使う業務)	
	人材充足度 『不足している』	技専での 育成希望	人材充足度 『不足している』	技専での 育成希望
作業員	47.7%	42.3%	51.7%	51.7%
主任作業員	48.6%	41.4%	48.4%	44.4%
工程管理責任者	49.1%	37.7%	48.4%	42.4%
設計担当者	52.7%	41.4%	48.4%	41.7%

ものづくり系事業所の技専新川センター及び砺波センターへのCAD関連科の設置案について、『設置すべき』(「設置するべき」+「どちらかといえば設置すべき」)は、「製造業」では「新川センター」が28.6%、「砺波センター」が27.7%となっており、一定のニーズがうかがえる。

一方、求職者では、あれば受けてみたいコースとして「CAD/CAM関連分野の技術・技能が習得できる」が20.4%(製造業希望者で24.9%)と一定のニーズがあることがわかる。

また、技専新川センター及び砺波センターにCAD関連科が設置された場合、受講してみたいかという問いに対して、23.7%(製造業希望者で31.6%)が「受講してみたい」と回答している。

## (3) DXの導入状況及びDX人材のニーズ

事業所におけるDXの導入状況は、「既に取り組んでいる」と「今後取り組みたい」と合わせて44.6%となっている。「製造業」では52.0%、「非製造業」では39.7%となっており、「製造業」の方がDXの導入が進んでいることがわかる。

デジタル人材の充足について、『不足している』(「やや不足している」+「かなり不足している」)は49.7%を占め、「今後は不足しそうだ」の25.0%を合わせると74.7%の事業所において将来を含めデジタル人材が不足していることからニーズが高いと考えられる。

一方、求職者がもしあったら受けてみたいコースとして、「DX・IT関連技術の作り方(プログラミングなど)が習得できる」が31.3%、「デジタル技術の活用による広報や求人活動、ネット販売の方法が習得できる」が28.4%、「DX・IT関連技術の使い方(ソフトウェアやアプリの利用法など)が習得できる」が24.9%と、デジタル関連のコースのニーズが高いことがうかがえ、事業者と求職者の双方のニーズがマッチしていると考えられる。

### 3. 訓練期間

技専修了生が回答した訓練期間は、「ちょうどよかった」が約7割を占めており、現在の各コースの訓練期間はおおむね適正であると考えられる。

求職者が適正だと思う訓練期間は、「6ヶ月程度」が36.6%、「3ヶ月程度」が26.4%となっている。また、希望時間帯は「1日(9～16時)」が64.0%を占めている。

受講方法が対面授業か、リモート授業か選べるようになると受講しやすくなるかという問いに対して57.1%が「受講しやすくなる」と回答している。希望職種やエリアによっては「受講しやすくなる」が6割を超えていることから、利便性を増すためにも、リモート授業の導入が望まれる。

### 4. 広報手段

#### (1) 技専の認知度

技専を以前から知っていたかという問いに対して、事業所(技専受講経験者採用無し事業所)では「知らなかった」が48.4%、求職者では46.4%と、まだまだ認知度が低いことがうかがえる。

#### ■技専の認知度

	事業所 ※技専受講経験者の採用無し	求職者
知っていた	49.0%	51.7%
知らなかった	48.4%	46.4%

技専修了生が技専を知った手段をみても、「ハローワークで知った」が70.7%を占めていることから、広く認知が浸透していないことがうかがえる。

#### (2) 就職の際に参考にする情報媒体

求職者が参考にする情報源として、「ハローワークインターネットサービス」が80.2%、「ハローワーク」が42.7%、「求人情報誌」が41.1%となっている。また、最も重視する情報源として、「ハローワークインターネットサービス」が41.3%であった。

年齢別にみると、「ハローワークインターネットサービス」がどの年代でも高く、30～50代では4割を超えている。

#### (3) 効果的な広報媒体

効果的な広報媒体として、事業所、修了生、求職者では、「県や学院のHP」や「市町村などの広報誌」といった媒体が効果的だとする一方で、高校生は「Instagram」「Twitter」「YouTube」といったSNSや動画サイトが上位を占めている。それぞれの媒体に特長があることから、どのようなターゲットに、どのような情報を周知するかによって、広報媒体を使い分けていく必要がある。

■効果的な広報媒体

事業所		修了生		
1	県や学院のHP	40.9%	市町村などの広報誌	49.0%
2	市町村などの広報誌	40.0%	県や学院のHP	38.6%
3	求職者・企業へのDM	32.0%	YouTube	25.0%

求職者		高校生		
1	市町村などの広報誌	47.2%	Instagram	47.3%
2	県や学院のHP	32.1%	Twitter	43.1%
3	YouTube	27.0%	YouTube	39.5%

